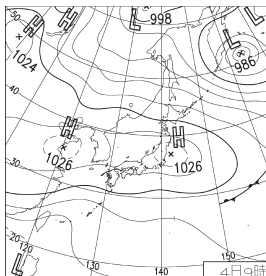


日々の天気図

— No. 117

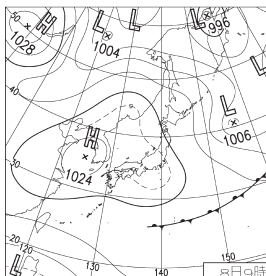
2011年10月

- ・3日、旭川で平年より20日早い初霜を観測。
 - ・21日、高知県宿毛で10月の日降水量1位を更新するなど、西日本では記録的な大雨となった所も。
 - ・25日、前線通過後、冬型の気圧配置となり近畿地方で木枯らし1号、翌日には東京地方も。
- (気象庁予報部予報課)



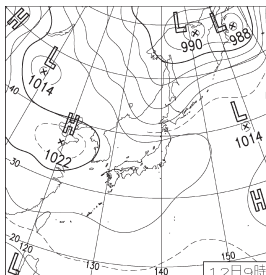
4日(火)沖縄で猛烈な雨

本州付近は、高気圧に広く覆われ晴れとなったが、沖縄～奄美地方では気圧の谷や湿った空気の影響で昨日に続いて雷を伴った猛烈な雨。沖縄県東村平良90 mm/1hで記録更新。



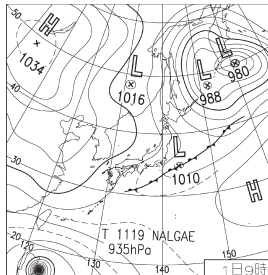
8日(土)秋晴れ

曇りや雨となった沖縄～奄美を除き高気圧に覆われて全国的に晴れ。放射冷却も加わり朝の最低気温は10月中旬～11月上旬並と低め。日中も気温は上がらず。



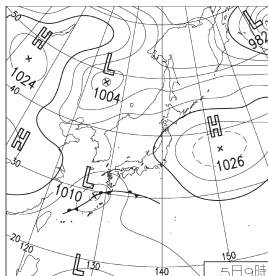
12日(水)北海道で強い雨や強風

高気圧に覆われ広く晴れるが、北海道は気圧の谷の影響で強い雨や強風。余市の29 mm/1hは10月1位。沖縄は湿った気流で雨となり、北大東空港で54.5 mm/1h。



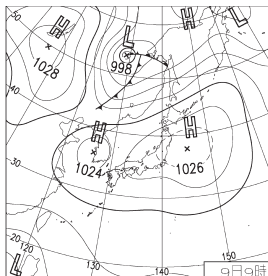
1日(土)10月始まりは「冬型」

大陸から寒気が流入、北日本中心に冬型の気圧配置に。西日本は晴れるが北日本は筋状雲がかかり、所々雨。北海道の山地では雪の所も。利尻山初冠雪。台風第17号熱帯低気圧に。



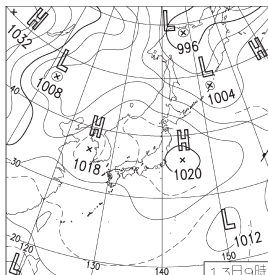
5日(水)日中12月並の寒さ

北海道で晴れた所がある他は雨や曇り。南西諸島は大雨で、沖縄県伊是名村内花で95.5 mm/1h。西日本～東北部は寒く最高気温12月並の所も。台風第19号熱帯低気圧へ。



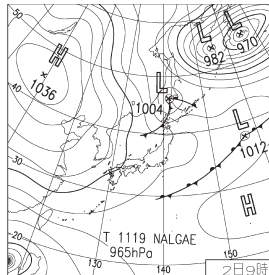
9日(日)大きな移動性高気圧

八重山諸島で雨。関東南部で一時雨が降った他は全国的に高気圧に覆われ晴れ。最低気温は平年より低い10月中旬～下旬並、最高気温は平年並の所が多かった。



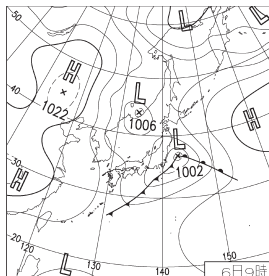
13日(木)西日本で雨

南西諸島は暖湿気により終日雨や雷。九州で降り始めた雨が高気圧の東進に伴って四国～近畿へと広がり、日中の気温は平年以下。北日本は高気圧に覆われて晴れ。



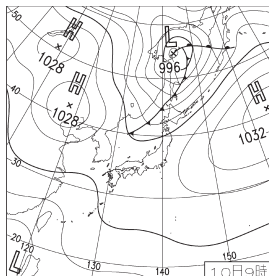
2日(日)北日本で初霜や初冠雪

寒気の影響で最高気温は北陸～北日本日本海側を中心に全国的に平年より低い。最低気温は北海道各地で氷点下となり帯広で初霜。岩手山などで平年より10日以上早い初冠雪。



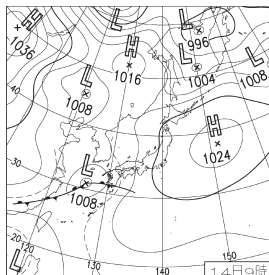
6日(木)関東以西は天気回復

九州～関東の雨は朝までに止み、日中は晴れて気温上昇。関東は前日の寒さから一転汗ばむ陽気。埼玉県熊谷の最高気温は前日より11.2℃高い27.1℃。北陸や北日本は曇りや雨。



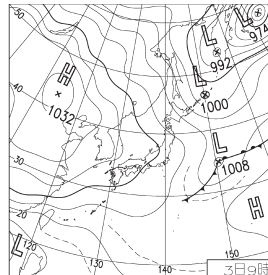
10日(月)寒冷前線、北日本通過

北海道～東北部は寒冷前線の通過で雨や曇り、雷雨の所も。西日本～東北部では概ね晴れたが、関東の一部では朝方雨も。南西諸島では雨や曇り。鹿児島県和泊町74.5 mm/1h。



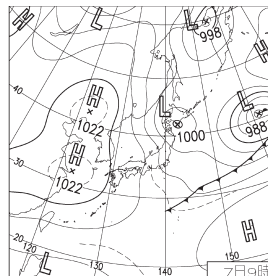
14日(金)西日本で猛烈な雨

高気圧に近い東・北日本では晴れの曇り。前線を伴う低気圧が近づいた西日本では雨。所により短時間強雨。長崎県新上五島町有川郷では120 mm/1h。



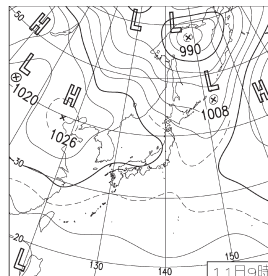
3日(月)冬のはしり

沖縄は激しい雨。寒気が流入した北日本は各地で初冠雪。東北や北海道は10月中～11月上旬並の最低気温。北海道旭川は平年より20日早い初雪。沖縄県竹富町大原で100 mm/1h。



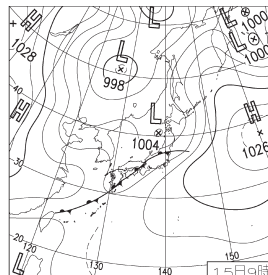
7日(金)北海道で激しい雨

低気圧により北海道は、様似町幌満で観測史上1位の46 mm/1hなど、激しい雨。北陸～東日本海側では寒気の影響で曇りや雨。その他の地域は広く晴れて関東では空気乾燥。



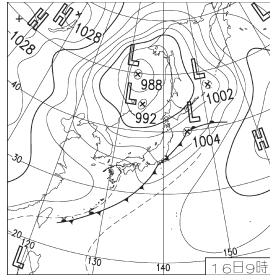
11日(火)連休明けは雲が多め

晴れた3連休が明け、本州付近は高気圧の張り出しが弱まって日射はあるが雲が多め。午後は西～東日本太平洋側で曇り。新潟県では朝、栃木県では夜に強い雨。

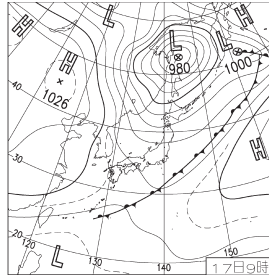


15日(土)東海で非常に激しい雨

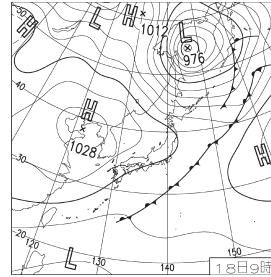
晴れ間が出たのは北海道の一部だけで、その他は低気圧と前線の影響で雨や曇り。東海では所々で非常に激しい雨。静岡市井川で55.5 mm/1h。北海道釧路市でイロハカエデ紅葉。



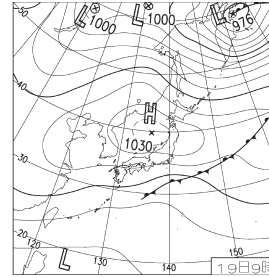
16日(日)東海・関東で真夏日
前線南下し西～東日本の雨は朝まで、日中は広く晴れ。北日本は気圧の谷の影響で雨や雷雨。南風の吹いた東～北日本で9月並の気温。静岡市清水、群馬県高崎市上里見では30.2℃。



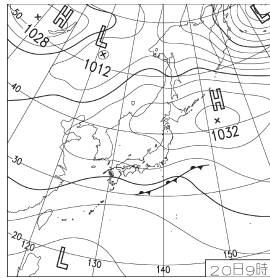
17日(月)北海道は大荒れの天気
低気圧や寒気により北日本の日本海側中心に雨や雪。北海道は、えりも岬で最大風速20.7 m/s、増毛で最大瞬間風速30.3 m/sなど大荒れの所も。稚内では平年より5日早い初霜。



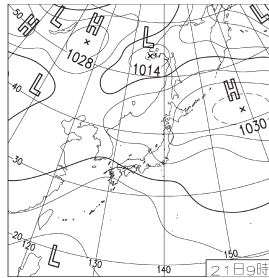
18日(火)西日本も朝の冷え込み
北日本は冬型の気圧配置となり日中の最高気温は10月下旬～11月中旬並。西日本は高気圧に覆われ晴れて朝の最低気温は10月下旬～11月中旬並。北海道は15 m/sを超える強風続く。



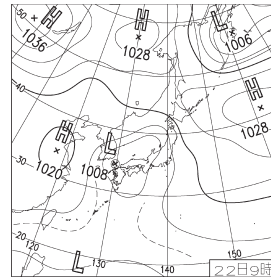
19日(水)関東は北高型の天気
関東では典型的な北高型の気圧配置。日本海中部に高気圧があり本州付近は等圧線が東西方向となる。本州南海上に前線が停滞し、関東の沿岸部中心に曇りで一部雨、他は晴れ。



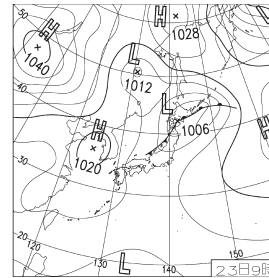
20日(木)北海道、日較差20℃以上
日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れたが、関東は東風で曇り、西～東日本の太平洋側は前線の影響で、曇り一部で雨。北海道滝上の気温は最高19.7℃、最低-3.1℃で日較差22.8℃。



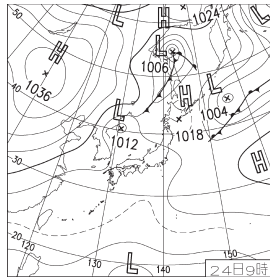
21日(金)九州・四国で猛烈な雨
南から暖かく湿った空気が流入し、日中は西日本中心、夜には東日本太平洋側で広く雨。高知県四万十市中村で103.5 mm/1h、宮崎県・大分県でも80 mm/1h台の雨。北海道稚内初霜。



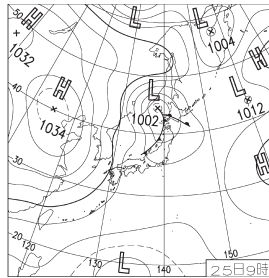
22日(土)大雨とフェーン
湿った暖かい空気の流れ込みで四国～関東の太平洋側中心に激しい雨。兵庫県洲本64.5 mm/1h、千葉県勝浦63.5 mm/1h。日本海側では気温上昇し石川県小松で最高気温28.6℃。



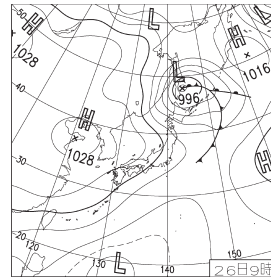
23日(日)暖かい一日
低気圧と前線に向かって南から暖かく湿った空気が吹き込んだため気温は全国的に高く、岩手県では日中の気温が真夏並の地点も。日本海側や北海道は気圧の谷の影響で雨。



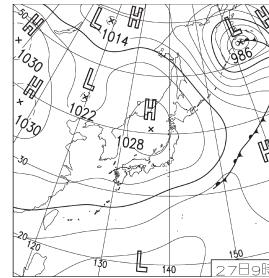
24日(月)穏やかな一日
西日本の一部で晴れた他は曇りが多め。日本海を北東進する低気圧に吹き込む南風が運んだ暖気に覆われ、全国的に朝の冷え込みがなく、日中も気温上がり、夏日となった所も。



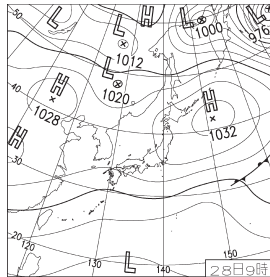
25日(火)全国的に暖かい朝
日本付近は南風の影響で朝の最低気温は全国的に高く9月並。北海道旭川市宮前通東で平年より7.8℃高い9.9℃。前線通過後次第に冬型の気圧配置へ。近畿地方木枯らし1号。



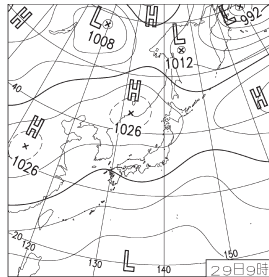
26日(水)東京地方 木枯らし1号
北日本中心の冬型。北陸～北日本日本海側で曇りや雨の他は広く晴れ。冷たい季節風が吹き、東～北日本の最高気温は前日より5～10℃も低下。北海道横津岳で初冠雪。



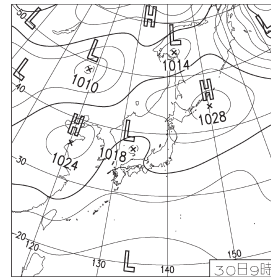
27日(木)全国的に朝冷え込む
高気圧に覆われ北海道や沖縄の一部を除き晴れ。最低気温は西～東日本の広範囲で平年より低く、長野県木曾町開田高原-4.4℃など北日本も含め氷点下の所も。北海道函館初霜。



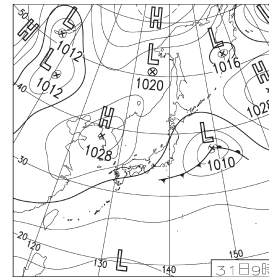
28日(金)今日も冷え込む
九州は湿った空気の流入によって雨となり、鹿児島県屋久島町小瀬田で48.5 mm/1h。東～北日本では放射冷却により11月中旬並の冷え込みになった所も。青森・札幌で初霜。



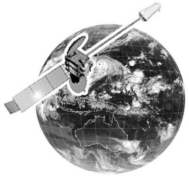
29日(土)東・北日本は晴れ
九州の雨が徐々に広がり、近畿も夜には雨。他の地方は高気圧に覆われ明け方冷え込みが強まり、長野県南牧村野辺山で最低気温-2.6℃。北東風の影響小さく日中も広く晴れ。



30日(日)東北まで雨広がる
低気圧の東進に伴い、西日本は未明から雨。東日本は午後から雨も午前中は関東南部で晴れ間も。北日本は概ね曇り夜雨。北海道では晴れ間も。北海道帯広市でイチヨウ黄葉。

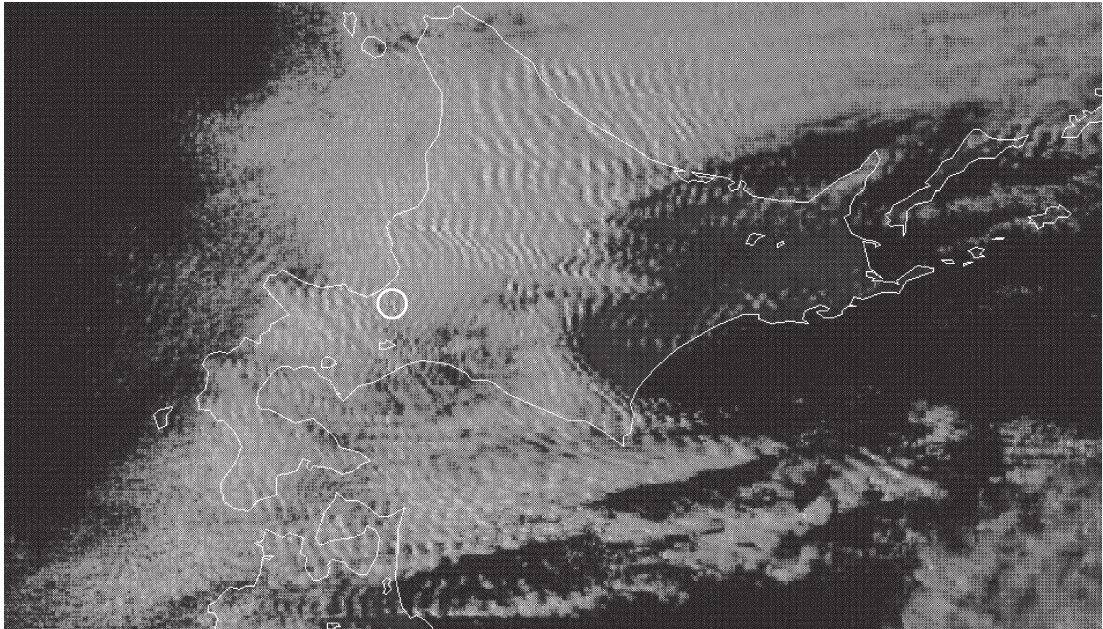


31日(月)天気回復 気温は高め
全国的に朝の冷え込みは弱く最低気温は9月下旬～10月中旬並と高め。天気は西から回復して晴れ。最高気温も全国的に平年より高め。北陸～東北は気圧の谷の通過による雨。



今月のひまわり画像—2011年10月

波状雲 (Lee Wave Cloud)

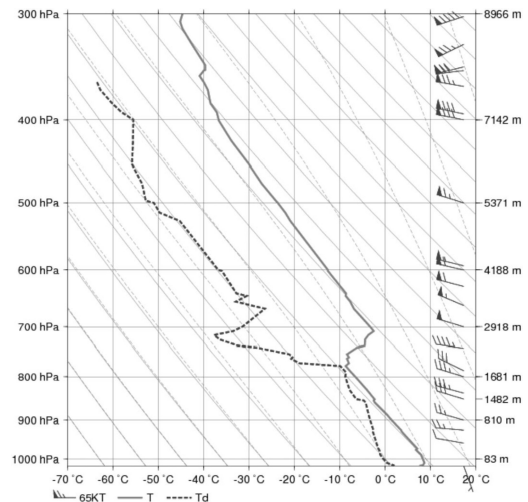


第1図 2011年10月18日15時（日本時間）の可視画像（記号については本文参照）。

第1図は2011年10月18日15時の可視画像である。北海道から青森県には等間隔に並んだ縞模様の雲列が見られる。これは山脈などの風下に発生した波（風下波）により形成された雲で、「波状雲 (Lee Wave Cloud)」と呼ばれている。風下波は山の上流側へも伝搬し、風上側でも波状雲が出現することがある。

第1図の札幌付近（図中の○印）における波状雲の雲頂温度は同時刻の赤外画像によると約 -9°C であった。同日21時の札幌の高層観測では、高度2 km 付近の温度が約 -9°C となっていた。また、エマグラム（第2図）を見ると、高度2.2~2.9 km 付近には沈降性の逆転層があり、この直下には湿った層があって、波状雲の雲頂高度約2 km に対応していた。

波状雲が出現している時は山脈に直交する方向で風が比較的強く、山頂付近に安定層が存在するため、乱気流が発生しやすくなる。このため、波状雲は乱気流発生の可能性を示すシグナルとして航空気象の現場で利用されている。当日も風下波による乱気流発生が予想され、北海道上空を飛行する航空機から「高度約3



第2図 18日21時の札幌のエマグラム。

km 以下で並〜弱い強さの乱気流」の報告が届いていた。

（気象庁予報部予報課航空予報室 原 基）